厚生労働省 ひと、くらし、みらいのために Ministry of Health, Labour and Welfare

資料４

中学校・高等学校における薬害教育について

厚生労働省 医薬局総務課

医薬品副作用被害対策室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

薬害に関する授業例について【１】
◆実施校：大阪府立布施高等学校（定時制の課程）〈大阪府〉

高校２年生　理科（科学と人間生活）「科学技術とわたしたちの生活のよりよい関係性について考える」

【理科（科学と人間生活）で「薬害」の授業を実施する理由】

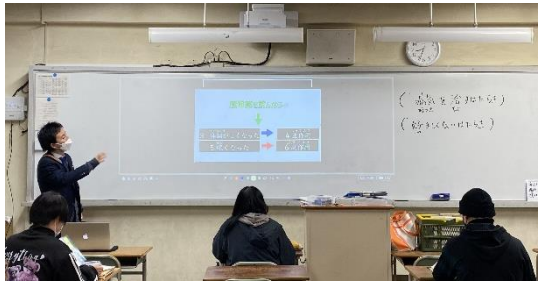
○本科目は「科学技術と人間生活」の適切な関係性について考えを深めるという目的があり、科学技術の発展の歴史として医薬品の発展を勉強した生徒たちが、本時を通じ、将来自分にとってより安全性の高い医薬品を選択する力や、医薬品の安全性を担保するための制度を理解し、活用していく力を養うことは重要かつ本目的に合致するものであると担当教員が判断した。

○薬害が起きる原因について深く考え、技術と社会の関係を見直し科学技術のリスクとベネフィットを個人として適切に判断する力を養うとともに、薬害エイズの事例を掘り下げて理解することで、科学技術が人々の幸福のために役立ち続けるためにはどのような工夫や制度が社会に必要かを考えることを狙いとして本時が実施された。

授業の流れ

導入

- 厚生労働省作成の薬害に関するパンフレット「薬害を学ぼう」及び学校作成のワークシートを配布
- １学期の「微生物と医療」の単元において、人間生活に大きく役立った医薬品として「抗生物質」（ペニシリンなど）を学習し、医薬品が人間社会に恩恵をもたらしたことを復習
- 今回の授業では、薬の主作用・副作用の違いについて学ぶとともに、（単なる副作用の問題ではない）「薬害」について学習することを提示。



（続く）

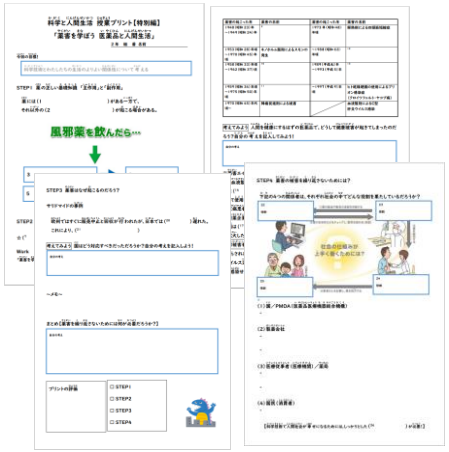
薬害の基礎知識インプット及びアウトプット

- ワークシートのステップごとに関連する動画を視聴【インプット】

※厚生労働省作成の「薬学を学ぼう」視聴覚教材［１］～［６］を使用

- パンフレットも確認しつつ、ワークシートの穴埋め作業【アウトプット】

【ワークシート】



まとめ

- 穴埋めの答え合わせをしつつ、パンフレットやワークシートを用いながら解説
- 薬害について新たに知ったこと、考えたことや感じたことをワークシートに記入し、振り返り

【生徒の感想（アンケートから抜粋）】

- 国や製薬会社等のその他等々が原因で広まってしまったのが多かったのがショックでした。中にはうったえてもスルーされたり、ひどいしうちを受けている人もいて、忘れてはいけない出来事・事件だと思いました。
- なにか問題がおきると、すぐに中止していろいろけんとうするべき。
- 薬の知識が知れてよかったです。
- 薬害がおそろしいものだと実感できました。

生徒の感想

アンケートから抜粋

【授業で一番印象に残った内容】

- 薬害によって、生まれてくる子どもの体に影響が起こるのはとても悲しいことだと思いました。
- 薬害は誰かが注意をおこたることで被害を受け、拡大していくので、注意をおこたらないようにして服用する側も、知識を持ちたいと思った。
- 国の対応が遅すぎること。　など

【授業で良かった点】

- 薬害の被害を受けた方々が薬害について知らない人達に、その危険性や出来事を教えてくれるのは、すごく大切なことだと思いました。
- パンフレットにそった授業で分かりやすかった。
- 昔の薬害情報を今、正しく学べてること。
- 薬害の歴史が知れたことで自分でも気をつけたいと思った。
- 知るべき事や薬害と副作用の違いを分かれて良かったです。　など

薬害に関する授業例について【２】
◆実施校：大阪府立桃谷高等学校（通信制の課程）〈大阪府〉

高等学校（昼間部・日夜間部　公共受講者）

授業の流れ

- 「公共　「薬害」について考えよう」の動画を視聴（もしくはスライド資料を読む）
- 「薬害を学ぼう」の資料（ウェブ上の資料もしくは冊子）を読む
- YouTubeで「『薬害を学ぼう』視聴覚教材　全編」を視聴
- 発展問題への回答(穴埋め問題等による理解の確認)

生徒の感想

アンケートから抜粋

【授業の感想】

- これまでサリドマイド、HIV、C型肝炎などは聞いたことがありましたが、スモンやクロロキシンなど初めて知る薬害もあり、またその被害者数の多さに驚きました。ほとんどの方が繰り返して欲しくないという思いで自信が受けた薬害について語っておられましたが、決して終わることのない心の葛藤があるのだと感じました。一つでも薬害が起こることのないよう、消費者として自身の薬について関心を持ち、周囲の人にも関心を持ってもらえるよう話をしていきたいです。
- 社会の仕組みがうまく働いて薬害の発生を防ぐためには、国・製薬会社・医療従事者・消費者である我々国民がお互いに薬の副作用や安全性に関する情報を共有し、それぞれの役割を果たすことが必要だと思いました。
- 子どものことを思って薬と提供者を信じて使用した結果、思いがけない重い被害に遭われた方は、心身ともに何重もの被害に遭われているのに心が痛みました。ニュースなどでは時々争っているのを見ることはあったのですが、実際、映像でそれぞれの薬害のことを語ってくださっているのを見て、意識が変わりました。私も子どもの予防接種で考える時もあるのですが、「恐れず」というのは難しいと感じました。

薬害に関する授業例について【３】
◆実施校：刈谷市立刈谷東中学校〈愛知県〉

中学３年生　社会科

○「戦後、様々な薬害により、様々な被害を受けた人たちがいた歴史を知ること」、今後に向けて「薬害と副作用の違い」、「なぜ薬害が起こるのか」や「薬害を防ぐにはどうしたらよいのか」について自分でよく考えて行動する力を養いつつ、他人を思いやることの大切さや人権について理解するために自分に置き換えてみるなど、生徒が想像力や感性を育んだりする機会となるものと担当教員が判断し、本時を実施した。

授業の流れ

１時限目

- HIV、C型肝炎、陣痛促進剤、サリドマイド、筋短縮症、ヤコブ病、MMRワクチン、HPVワクチンを勉強する８グループに生徒が分かれ、それぞれの被害者団体からの講師（各１名）の方もグループに参加（オンライン形式）の上、事前に被害について教科書や全国薬害被害者団体連絡協議会及び厚生労働省のHPで学習をしてきたことを発表する
- 各講師の方から被害に関する講演をいただく

2時限目

- 「薬害が起こる原因・薬害を防ぐには」について、講師の方にヒントをいただきながら生徒を中心に話し合う
- 講演を踏まえた考えの変化等について感想を発表

【生徒の感想（アンケートから抜粋）】

- もっと薬害のことを周りに広めるべきだし、今後はこのような薬害の被害がないように薬の量や使用方法を徹底的にすることが必要だと思いました。
- 薬害被害者に直接話を伺ったことで、その人の人柄なども知ることができ、被害者というとくらいイメージがありましたが、その被害に対して闘っていこう、伝えていこうという気持ちが感じられました。

生徒の感想

アンケートから抜粋

【授業で一番印象に残った内容】

- 体の調子をよくしていくために使った薬がこれから先の人生に悪い影響を残してしまったこと。
- 薬害をなくすことはとても難しいけど、薬害が起こってしまった後の他人からの差別や偏見は意識によって変わるので正しい知識を得て一人一人の意識を変えていくことが大切だということ。　など

【授業で良かった点】

- どうすればこれから薬害が起こることを防げるのかよく考えるきっかけにもなった。
- 薬害の被害に遭われた人が、薬を全否定するわけではなく、自分の経験や正確なデータをもとに話されていたこと。
- 被害を受けた当事者の方から直接話を聞けて調べてもわからなかったところや自分事のようにとらえることができたこと。　など

薬害に関する授業例について【４】
◆実施校：京田辺市立田辺中学校〈京都府〉

中学３年生　人権学習

【本時の目的】

○薬害の現状や歴史、取組などを学び、残された課題や防止するために必要なことなどを正しく理解する。

○薬害の被害者の方から、直接その体験や望まれていることなどをお聞きし、人権的な観点で薬害を捉え、薬害を被害者の立場に立って理解する。

○薬害を繰り返さないために自分たちができることや、自分たちが被害者にならないためにしていかなければならないことについて考える。

１時限目

- 『薬害を学ぼう』の動画を視聴
- 薬の副作用と薬害の違いについて学習するとともに、２時限目に行われる「陣痛促進剤に関する講演」に先立ち、穴埋めプリント等を用いて陣痛促進剤による被害について学習する

２時限目

- 陣痛促進剤の被害について、「薬害を繰り返さないために～産科医療を例に人権について考えながら～」という演題にて、講演を聴く

３時限目

- 薬の副作用をゼロにすることはできないが、医薬品を使用する生徒自身が、薬害の被害者になることをできる限り防ぎ、「薬害を繰り返さない」ためにはどうしたらよいかについて、２時限目の講演を踏まえ、感想をまとめる。

生徒の感想

感想文より抜粋

【講演を踏まえた感想】

- 「薬物乱用」などの悪い薬物についてのことしか学んだことがなかったので、「薬害」という言葉自体が初めて聞くものでした。今回の授業を通して、病院から出される薬であっても、体に悪影響を及ぼすこともあること、情報の隠蔽や自分の価値だけを考えてしまった「人」の背景から薬害が引き起こされていたことをとてもよく知ることができました。
- 薬自体が悪いのではなくてその薬のことを理解せずに使った人の責任であると改めて思いました。情報を公開しなかったことで、救えるはずの命が失われたことは本当に残念なことだと思いました。この先、このようなことがおこらないために、おこさないために、「薬」というものについて多くの人が理解できる情報を広めることが必要だと思いました。
- 昔は今のように詳しい病名や薬の情報は、患者に伝えられていないことが分かった。希望する患者にだけ、このような情報を伝えるのではなく、全ての患者に情報を伝えることで、もし、薬の被害者になってしまったときでも、その原因について素早くつきとめることができるため、同じような薬の被害を減らすことができるのだと分かった。
- 薬を使用する時には情報を知り、安全に薬を使っていきたいと思う。
- 「情報を共有する、共有される。そしてその情報についてしっかり考える。」ことが子どもから大人でも誰でもできる一番簡単な薬害を繰り返さない方法だと考えました。